

意匠学会第 60 回大会 記念シンポジウム

デザインミュージアムの可能性

日時： 2018 年 8 月 9 日（木）16 時～18 時

会場： 同志社大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

京都市営地下鉄烏丸線、今出川駅 2 番出口を地上に出て烏丸通を北へ徒歩 1 分

〒602-0023 京都府京都市上京区 烏丸通上立売下る御所八幡町 103

意匠学会設立 60 周年を記念する大会のシンポジウムのテーマは「デザインミュージアムの可能性」です。

「デザイン」とは、現代社会においては、手の中に入るような小さなものから都市空間にまで幅広く使われる概念になっています。日本国内の大学を見るだけでも、インテリアデザインやグラフィックデザインから都市デザインや医療デザインというように 20 を超える「デザイン分野」があり、その幅広さを知ることができます。

そして、欧米諸国にはさまざまなデザインミュージアムが存在しています。それぞれ、教育やアーカイブなど独自の方向性を打ち出していますが、いずれにしても、デザインを「見せる」場としてミュージアムが機能しています。日本でもデザインを扱うミュージアムをつくる構想はありましたが、結局、設立には至っていません。ユニヴァーサルなデザインから各地域の伝統文化に根ざしたデザインまでを包括することはたしかに難事業です。また、日々、生み出されるさまざまなプロダクト製品やポスター類を一堂に集めることはしよせん不可能です。では、私たちはどのような方向性を模索するべきなのでしょう。

デザインのミュージアムが必要なのか、デザインとはミュージアム化することが難しいジャンルなのか、つくるとすればどのようなミュージアムが可能なのか。このシンポジウムでは、皆さんとともにそれを考えてみたいと思います。

シンポジウムには、建築史家で東北大学大学院 SSD (Sendai School of Design) の教授である五十嵐太郎氏、田中一光アーカイブなどを管理・運営している CCGA 現代グラフィックアートセンターのセンター長である木戸英行氏、株式会社良品計画の企画デザイン室デザイナーを経て、ロンドンでプロダクトデザイナーとして活動した経験をもつ中坊壮介京都工芸繊維大学准教授の三人のゲストをお招きして、学会の外でデザイン活動、デザイン研究に携わっている視点から最先端の話題を提供していただき、議論を展開してゆきたいと思っています。

【構成】

- | | |
|-------|--|
| 趣旨説明 | 並木誠士（京都工芸繊維大学） |
| パネリスト | 五十嵐太郎（東北大学大学院 SSD (Sendai School of Design) 教授）
木戸英行（公益財団法人 DNP 文化振興財団/CCGA 現代グラフィックアートセンターセンター長）
中坊壮介（京都工芸繊維大学デザイン科学系准教授/株式会社良品計画外部契約デザイナー） |
| 司会 | 竹内幸絵（同志社大学） |

【プログラム】

- | | |
|-----------------|--------------|
| 16 : 00～16 : 10 | 趣旨説明 |
| 16 : 10～16 : 25 | 五十嵐太郎 |
| 16 : 25～16 : 40 | 木戸英行 |
| 16 : 40～17 : 05 | 中坊壮介
(休憩) |
| 17 : 15～18 : 00 | ディスカッション |

※ 当シンポジウムは一般の方にもご参加いただけます。

ご希望の方は受付にお申し出ください。(参加費 2500 円を申し受けます。)